

## 第 61 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：湿地環境の順応的管理—

5月の研修会は、湿生生態園の植生管理作業及び、以前は谷戸山公園でも見られていた絶滅危惧種のホテルジョウのビオトープ再生を行いました。



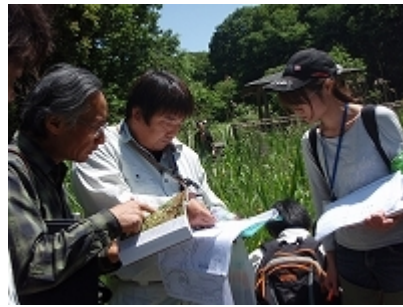
今回から、水辺地をフィールドとした研修がスタート。まずは講師から、公園の管理方針や今日の作業内容の説明を聞きます。



五月晴れの谷戸山公園には、たくさんの親子連れが来園していました。一般の方の利用を妨げないよう、作業に入ります。



まずは2つのチームに分かれ、湿生生態園の植物調査をしました。  
日当たりが良いため、既に1m以上にもなるヨシが繁茂していました。



分からない種は、図鑑で確認します。



種によって草丈が違うので、枝葉を掻き分けて、  
低い場所の植物も見逃しません。



調査の後は、ヨシの刈り取り作業です。湿生生態園は、水辺に暮らす様々な動植物を観察するという目的を持っています。ですから、生長の早いヨシを刈り取ることで、生長を妨げられていた他の水生植物にも、陽の光が行き届いて、今よりも豊かな植物相になることが期待できます。



ヨシに隠されていた水路も、見えてきましたね。  
作業中、ずっとシュレーゲルアオガエルが鳴いて  
いましたが、見つけるのは難しいようですね。



午後は恒例の「気になる環境の記事」の発表と、  
市民を対象とした谷戸山公園でのイベントの企画  
を提案していただきました。今後の研修会では、  
さらに案を増やし、まとめていきたいと思います。



その後、ホトケドジョウのビオトープ再生のために、昨秋に湧水地点まで繋げた水路を改修しました。渇水時でも、水路に暮らす生きものが暮らせるよう、溜まりをつくりました。



陸地化してしまっていた部分も、再度水路を再生し、流れができました。



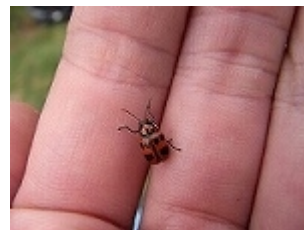
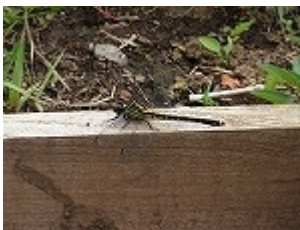
こちらは水路で暮らしていたオニヤンマの幼虫。  
挿泥産卵型のオニヤンマにとって、10cm以上の泥が堆積していて浅くて流れの緩やかなこちらの水路は、格好の産卵場所だったんですね。



水路を樹々が覆って、暗くなってしまわないよう、周辺の林の間伐も行います。  
間伐材は、水路の杭や粗朶として利用します。



これで今回の研修会は終了です。



今回出会った生きもの達です。左からヤマサナエ、ニホンカナヘビ、クロボシツツハムシです。

座間谷戸山公園での研修会は6年目に入り、今まで見られなかった植物がたくさん見られるようになりました。皆さんもぜひ、研修会に参加して変化を確かめてみませんか？